

○今回のポイント

インドシナにおけるアメリカの介入は泥沼化し、結局は撤退を余儀なくされた。1960年代のアジアでは強権的な支配のもとで近代化をはかる開発独裁があらわれた。

【インドシナ紛争】

(1) [1. インドシナ戦争] (1946～54)

フランス・ヴェトナム国 VS ヴェトナム民主共和国・カンボジア・ラオス

1945 日本降伏直後、[2. ホー=チ=ミン]がヴェトナム民主共和国独立宣言(首都ハノイ)

1946 インドシナ戦争勃発

1949 フランスが阮朝の王[3. バオ=ダイ]を主席とするヴェトナム国を建国(首都サイゴン)

1954 フランスの拠点[4. ディエンビエンフー]陥落 ジュネーヴ協定成立(※アメリカは調印せず)

(2) ヴェトナム戦争

アメリカ・ヴェトナム共和国 VS ヴェトナム民主共和国

1955 [5. ゴ=ディン=ディエム]がバオ=ダイを追放してヴェトナム共和国建設

1960 親米独裁政権の打倒を目指す[6. 南ヴェトナム解放民族戦線](ヴェトコン)が結成。

1961 米国がヴェトコンを共産主義の侵略者とみなして軍事介入を決意 → [7. 軍事顧問団]の派遣。

1963 ゴ=ディン=ディエム政権がクーデタにより崩壊 → アメリカの本格的な軍事介入始まる。

1964 [8. トンキン湾事件]…米軍駆逐艦が攻撃を受けたとするでっちあげ事件。ジョンソン大統領にヴェトナム問題解決のための特別権限が与えられる。

1965 [9. 北爆]開始! → 南に戦闘部隊を派遣。北ヴェトナムも正規軍を投入し、戦争が本格化。

1968 [10. テト攻勢]…旧正月(テト)に北ヴェトナム軍と解放戦線がアメリカ基地と主要都市へ一斉攻勢を行う。アメリカ国民に戦争泥沼化を印象付け、内外の反戦世論を煽り戦争の転機となる。

1973 [11. パリ和平協定]…ニクソンがアメリカ軍撤退を実現。

1975 米軍撤退後も戦闘は続くが、ついに[12. サイゴン]陥落 → 戦争終結

1976 南北統一 → [13. ヴェトナム社会主義共和国]成立

(3) カンボジア紛争 (1970～1991)

① [14. シアヌーク]政権(1949～1970)

・カンボジア独立、国王シアヌークの下で[15. 王政社会主義]を唱える。

② [16. ロン・ノル]政権(1970～1975) アメリカ支援

・1970.4. 米軍の侵攻に呼応してロン・ノルが右派クーデタを起こしクメール共和国を樹立。

→ 【ロン・ノル&米軍&南ベトナム】 VS 【シアヌーク&ラオス愛国戦線&ベトコン】

→ 1975 [17. プノンペン]陥落! ロン・ノル政権打倒 → [18. 民主カンプチア]が成立しシアヌーク復権

③ [19. ポル・ポト]政権(1976～1979) 中国支援

・ポル・ポト政権誕生によりシアヌーク辞任 → 住民の大量強制移住、大量虐殺、毛沢東主義 → インドシヤ難民の流出

・1978.12 [20. ヴェトナムがカンボジア侵攻] → ポル・ポト政権打倒。ヘン・サムリン政権樹立。

④ [21. ヘン・サムリン]政権(1979～91) ヴェトナム・ソ連支援

・カンボジア人民共和国(ヘン・サムリン&ヴェトナム&ソ連) VS [22. 民主カンボジア連合]政府 【ポル=ポト・シアヌーク・ソン=サン】

・1989.9 カンボジア駐留ヴェトナム軍完全撤退 ← ゴルバチョフのヴェトナム政策見直し&ヴェトナムのトイ=モイ政策

・1991.10 [23. カンボジア和平協定調印]

⑤ [24. 国連カンボジア暫定行政機構] (1991～1993)

・1993年による総選挙(ポル・ポト派不参加)でシアヌーク復権 → [25. カンボジア王国]成立(1993～)

(4)ラオス情勢

①1953年 ラオス独立

②1960年代 内戦状態；政権を握る右派VS左派の[26. ラオス愛国戦線] (パテト=ラオ)

③1975年 ラオス愛国戦線が勝利 → [27. ラオス人民民主共和国]が成立。

【アジアの開発独裁】

(1)[28. 開発独裁]とは何か？

・強権支配によって反対派の運動を抑圧して、工業化や近代化を強行しつつ、近隣の社会主義勢力に対抗する政権のこと。

(2)韓国

①[29. 李承晩]政権(1948~60)

・反共イデオロギーと国民の反日意識を利用して独裁体制を築く。
・アメリカの経済、軍事援助により成り立っていたが、農業と零細企業を圧迫し政府と結びついた財閥系企業だけが優遇される。50年代末にアメリカの援助が削減されて不況となる。
・60年 [30. 四月革命]勃発。民主化・統一・経済的自由が求められ李承晩は失脚。

②[31. 大韓民国軍部クーデタ](1961)

・[32. 朴正熙]を中心とする軍部若手将校がクーデタを起こし政権掌握。63年に民政に移行。

③朴正熙政権(1963~79)

・国内…強権体制を維持。
・対外…対米依存関係；[33. ヴェトナム]戦争に派兵
…対日関係改善；[34. 日韓基本条約](1965)
・日本と韓国の国交正常化のための条約。1910年の韓国併合に関する条約を無効とし、韓国政府を朝鮮半島唯一の政権と認定。日本から無償3億ドル、有償2億ドルの経済援助を行うことも決められた。
・政権末期…大量に流入する日本資本で経済発展を図るが、政権の腐敗、貧富の差の拡大が進行し、79年に暗殺された。

(3)インドネシア

①[35. スカルノ]政権(1945~67)

a)外政：[36. 非同盟中立主義]を唱える。中国と共同歩調。1965年[37. 国連脱退]。

b)内政：[37. NASAKOM]体制；民族主義、イスラム、共産主義の3政治勢力の協力の上に権力を握る。

c)[38. 九・三〇事件](1965)…軍部左派蜂起を右派が巻き返し、その後一挙に左派勢力を壊滅させた事件。インドネシア共産党は壊滅し、NASAKOMも崩壊した。67年スカルノは失脚。

②[39. スハルト]政権(1968~98)

■九・三〇事件を收拾して実権を握り68年大統領。反共親米路線を取り、西側資本を導入して積極的な経済発展を図った。しかし貧富の差の拡大、スハルト一族による利権の独占などで批判を浴び、98年大統領を辞任した。

■[40. ASEAN](1967)…タイ・マレーシア・シンガポール・インドネシア・フィリピンで結成。当初は反共軍事同盟的傾向。

(4)イラン

①[41. パフレヴィー2世](1941~79)…アングロイラン石油会社国有化を図るモサデグを打倒して近代化政策。

②[42. 白色革命]…パフレヴィー2世による上からの近代化政策。米国の経済援助と膨大な石油収入を通じて軍や首都の近代化を強行。貧富の差の拡大など社会矛盾が噴出し、イラン革命で亡命。